

公益財団法人豊橋文化振興財団情報誌

2013年7月—8月

# プラッツ ニュース

vol.2



TOYOHASHI  
ARTS  
THEATRE  
PLAT



式典では、佐原光一・豊橋市長がPLAT建設に尽力した3人を紹介。写真右から佐原市長、芸術文化アドバイザー・平田満、設計主任・長谷川祥久氏、芸術文化プロデューサー・中島晴美。



## 芸術を乗せて、PLATの一番列車が動き始めた



「棒縛」右:野村万作(太郎冠者)/左:石田幸雄(次郎冠者)



「三番叟」野村萬齋

2013年4月30日、オープニング記念式典での「万作の会」による『三番叟』『棒縛』上演、小曾根真さんによるピアノの「弾き初め」をもって、ついにPLATの芸術の鼓動が始まりました。続く5月3日には高座開き『立川志の輔独演会』、5日に近藤良平さん率いるコンドルズ『GRANDSLAM』と、館内は感動と熱気に包まれる日々。初年度の1年間、この鼓動を選びすぐりのステージでより大きく確かなものにしていきます。あらゆる表現は、それを受け止める観客があって初めて完成するもの。どうぞ皆さん、一度は足を運び、ともにPLATを育ててください。

### 劇場の「ありがとう」の 声が聞こえる

芸術文化プロデューサー **中島晴美**

ステージに向かって右手にグロトリアン、左手にスタインウェイ。式典の最後を飾ったのが、小曾根さんによるこの2台のピアノの同時演奏です。1曲目は即興曲で、実



はこれは、本番直前にご自身が決めたこと。客席への音の響きを確かめようと2階席で『三番叟』と『棒縛』を観るうちに、その芸術性と、そして客席の熱気と興奮に包まれて曲想が浮かんできたのだそうです。その演奏に、2人の調律師さんは「ピアノが喜んでいる」と感無量の面持ちでした。即興ゆえに二度と聴けないのが残念な気もしますが、たとえ同じ演目でも、あらゆる表現は、劇場によって、あるいは客席の雰囲気によって変化します。「同じもの」はあり得ない。だからこそ、一瞬一瞬を大切に。アーティストと劇場が一つになって生まれるライブの魅力は、ここから生



穂の国とよはし芸術劇場PLAT  
Tel: 0532 (39) 8810 [劇場代表]  
<http://toyohashi-at.jp>

豊橋駅 (JR東海道新幹線・東海道本線・名古屋鉄道)、新豊橋駅 (豊橋鉄道渥美線) 直結。豊橋駅南口から徒歩3分。 ※駐車場はありません。公共交通機関、お近くの公共駐車場等をご利用下さい。

- 企画・発行 公益財団法人豊橋文化振興財団
  - 編集 森 絹江
  - デザイン 松古太郎デザイン事務所
  - 写真 [表紙] 谷古宇正彦
- 平成25年6月 発行2号 [隔月発行]



撮影:谷古宇正彦

まれるとってよいでしょう。5月3日には、志の輔さんも事前に自ら2階席に上がって、観客にとって一番いい見え方をする屏風の位置、あるいは座布団の高さを模索してステージを創造してくださいました。また、私にとって何より嬉しいのが、PLATの完成により本格的なダンス公演が可能となったことです。「子どもの日」の5日、ダンサーのつま先まで見える主ホールの緊張、そして真新しいステージで踊るウキウキ感を余すところなく客席に伝えたコンドルズの舞。親子室では子どもたちの身体が自然に動き始め、やがてそれは、ダンスとなっていきました。こうしたアーティストの皆さんは、駅南口からPLATへのストロークで一様に足を止め、線路のある風景に見入ります。列車が走る一瞬をカメラにおさめる人もいて、それは、PLATが豊橋の街につながっていることの象徴のように思えました。トップアーティストに頭を優しくなでてもらい、抱きしめてもらった幕開け。PLATは今、確かに、全身で鼓動を始めています。



さまざまな分野のアーティストがPLATの感想を語り合った交流会。「『三番叟』で鈴を振るのは種をまく所作、足拍子を踏むのは『地を固める』という意味で、五穀豊穡を祈るもの。『種の国とよはし芸術劇場』のオープニングにぴったりの演目です」と、野村萬斎さん。一方、劇作家・永井愛さんは、「列車の見える風景がとても好き。何か、インスパイアされるものがあったらいい物語が生まれそう」と、目を輝かせます。

## 演じ手の、芸術への愛とリスペクトが お客さまに感動を伝える



小曾根真

一つのコンサートで2台のピアノを弾くのは大変なこと。それなら、その環境を思い切り楽しもうと考えて生まれたのが、鍵盤の側を向い合せにした同時演奏です。

僕は、世の中で一番素晴らしい楽器は人間の声だと思っています。その人がその時々感じたものを自在に表現できるでしょう。当然、たとえば4人の人間による和音は決して完璧ではありません。だからこそ、音が温かいし厚みがある。ピアノも同じで、2台を同時に弾けば音にズレが生じます。その揺らぎが音楽の厚みを創りだしていく。もちろん技術は必要ですが、もっと大切なのがアートへの愛とリスペクト。それが、お客さまに感動を伝えるのです。音楽だけではありません。これからPLATには、同じような想いをもって演じる人たちの魂の「気」がどんどん残っていくはず。その「気」と、そして、お客さんの「気」が劇場を育てていく。この2台のピアノもいろんな人たちが弾くことで、楽器として熟していくと確信しています。

[おぞね・まこと] 1983年パークリー音楽大学ジャズ作・編曲科を首席で卒業。同年カーネギーホールにてリサイタルを開き、米CBSと日本人初のレコード専属契約を結びアルバム「OZONE」で全世界デビュー。2003年バートンとのデュオ「ヴァーチュオーシ」がグラミー賞ノミネート。近年はクラシックにも取組み国内外の主要オーケストラと共演。また、演劇や映画音楽の作曲等、多彩な才能を発揮し国内外の檯舞台で活躍中。国立音楽大学教授。

## この劇場には、造った人、動かす人、関わる人すべての想いが生きている。



立川志の輔

私たちは毎年、沖縄から北海道まで全国をまわりますが、観光する時間はほとんどなく、その街を感じるの、やはり高座です。豊橋は、とてもいい街です。これだけお客さまが集まってくださったことはもちろん、劇場に込められた「想い」が肌で伝わってきたからです。現代は、技術的にも資材的にも立派な建物を建てることは、いくらでも可能です。でも、私たちを一生懸命にさせるのは、劇場を企画した人、造った人、運営する人の想い。逆に、想いのない空間に身を置くと、なんとなく乗らない感じがつきまといま。PLATの最初の公演を勤めさせていただいて、私自身、ただ言葉を喋っているのではない、「想い」をもって仕事をしているのだと、あらためて確認させられました。本当に、芸人冥利に尽きます。ありがとうございます。

劇場に関わる人の「想い」は、劇場を満席にします。チケットが取りにくいこともあるかと思いますが、観劇は、チケットが取れた喜びから始まります。皆さん、その喜びをぜひ味わってください。

[たてかわ・しのすけ] 1954年生まれ、富山県出身。明治大学在学中は落語研究会に所属。卒業後、劇団、広告代理店勤務を経て、昭和59年に立川談志門下に入門。昭和63年と平成元年には、につかん飛切落語会若手落語家奨励賞を2年連続受賞。平成2年に文化庁芸術祭大賞、とやま賞、平成5年富山県功労賞、平成17年北日本新聞文化賞特別賞、平成19年文化庁芸術選奨文部科学大臣賞を受賞するなど、数多くの受賞歴を持つ。

# 市川猿之助

## 被災地で公演することの意味を噛みしめる

—今回、襲名後初めて、その披露公演として全国をまわられます。

猿之助●はい。東コースで北海道からまわらせていただきますけれども、とくに福島県をはじめ、東日本大震災にあわれた、まさにその土地へ行ってお芝居をすることの意味をしっかり噛みしめて踏み出したいと思っています。同時に、全国各地の、なかなか大劇場に足を運んでいただく機会のない方に、大劇場と同じクオリティと同じ熱気を持った作品を勤めて、同じ感動を味わっていただきたいと願っています。

—プログラム中の『義経千本桜』の「四の切」は猿之助さんがずっと演じていらっしゃるものです。特別な思いがありますか。

猿之助●猿之助といえばやはり、「四の切」「ヤマトタケル」「黒塚」ですから、三代目猿之助を語るときに、この三つは外せません。そのなかで、各地をまわる際に時間的にも質的にももっとも適しているのが「四の切」だということが、一つにあります。そして、「四の切」を通じて歌舞伎の面白さを体験していただきたいし、私自身が今、一番やりたいということもある。

役者としていろいろな役をやらなければならないのはもちろんですが、同時に一つの役を一生やっていくなかで究められるものがあると思います。歌舞伎の素晴らしさには、同じ作品でもそのたびに違う見方があるんだということを感じてもほしいし、いろいろな思いが重なった上での「四の切」ですね。

—『義経千本桜』には、中村梅玉さんも出演されます。

猿之助●梅玉さんは、三代目猿之助の雰囲気をととてもよくご存知ですから、そういう先輩が「伯父さんはこうだった

全国に大劇場と同じ熱気と感動を伝えたい。



よ」と言ってくれたり、ちょっとしたアドバイスをしてくれるだけで安心できます。自分一人だけで道を歩いていると、ともすると道を間違えもしますから、そういうときに正しい道を指し示してくれる、大きな胸で受け止めてくれる。とても心強いですね。

## 劇場は、魂を込めることで育っていく

—豊橋では、今年オープンしたPLA T主ホールでの公演になります。

猿之助●全国どこに行っても、いい劇場はたくさんあります。でも、新しい歌舞

# PLATに松竹大歌舞伎 がやってくる!

伎座もそうですが、いい劇場がありさえすれば芸術や文化に貢献できるわけではありませんよね。大切なのは、いかにそこに魂を込めるか。一生懸命魂を入れ、そして劇場を育てていく。そして、お客さまに育てていただく。今回でいえば、日本の伝統である歌舞伎に参加していただく。それは、何か格式ばったことではなくて、お祭りに参加する感じがいいと思うんですよ。それが芸術が地域に根付いて後世に伝わっていく力になるんじゃないでしょうか。 撮影:谷古宇正彦

【いちかわえんのすけ】 四代目 澤瀉屋 昭和50年11月26日生まれ。市川段四郎の長男。58年歌舞伎座「御目見得太功記」の禿(かむろ)たよりで二代目市川亀治郎を名のり初舞台。平成24年6・7月新橋演舞場「義経千本桜 一川連法眼館の場」の忠信実は源九郎狐、「ヤマトタケル」のヤマトタケルなどで四代目市川猿之助を襲名。

## 松竹大歌舞伎 『市川亀治郎改め 四代目市川猿之助襲名披露』

- 日時=7月18日[木]  
13:00開演/18:00開演[2回公演]
- 会場=PLAT主ホール
- 演目=歌舞伎十八番の内『毛抜』  
四代目市川猿之助襲名披露「口上」  
三代猿之助四十八撰の内  
『義経千本桜』川連法眼館の場  
※夜の部は「毛抜」と「義経千本桜」を入れ替えて上演いたします。
- 料金=[全席指定] S席10,000円  
A席7,000円/B席5,000円

前売予定枚数終了 |  
※当日立ち見スペースの販売あり(各回10枚程度)

### 本花道が初登場。 主ホールで歌舞伎の伝統的 舞台芸術を堪能する

「主ホールはとんがった演出にも応える現代的な空間を目指しつつ、基本の形式そのものは実は、クラシカルな、芝居小屋的な空間で、花道がよく似合う」と、話すのは設計を担当した香山壽夫建築研究所設計主任の長谷川祥久さん。そこで、採り入れられたのが、客席の一部が本花道に変わる仕掛けです。とくに「花道からの出で演技は決まる」とさえ言われる歌舞伎のために、花道の突き当たりに「鳥屋」と呼ばれる小部屋も設

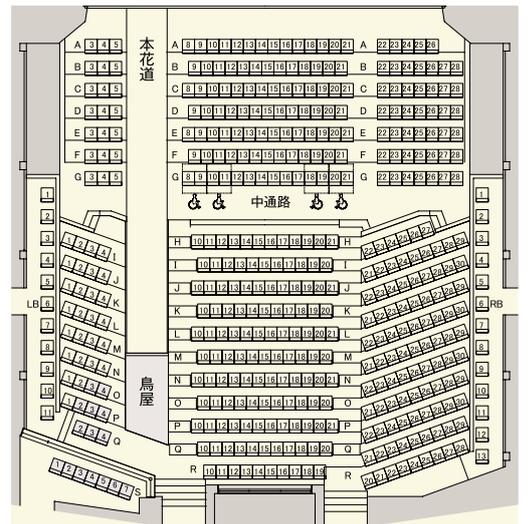
置。俳優が出番の前に精神を集中させる大切な場所でもあります。客席を花道にするのは手動のため、今回、松竹大歌舞伎上演にあたって、豊橋の劇場スタッフが猛練習。本番前の仕込みの段階で花道を登場させる準備を整えました。そこにあるのは、演出家にも出演者にも、そしてもちろん観客にも、最良の環境を届けたいという熱い想いです。花道だけではありません。大道具、照明、あるいは猿之助歌舞伎でいえば早変わりを支えるベテランたち。表には出ないけれども数えきれない人々の力が一つになって初めて舞台芸術は完成する。どうぞ、この総合芸術を堪能してください。



撮影:永石秀彦



本花道形式 1階  
今回採用する本花道形式の座席表。標準形式から80席分を本花道にあてています。主ホールはほかに、前舞台やオーケストラピット設置時や脇花道形式にも対応できる設計になっています。



# とにかくおいでよ、劇場へ

KAAT神奈川芸術劇場芸術監督 宮本亜門 × PLAT芸術文化プロデューサー 中島晴美



昨年、KAATのスタジオで行われた「ピノキオ〜または白雪姫の悲劇〜」試演会。劇場そのものがまるごとワンダーランドになった。

## 人と人が感動する。 それが演劇

中島●KAATの芸術監督に就任されて4年目に入りました。これからの劇場のあり方について、何かお考えがありますか。  
宮本●今、劇場の在り方が、時代と共に変わってきていると思うんです。ですからあえて試行錯誤しながら、一つ一つ企画を考えているのが現状です。世界の演劇を観ても、実に刺激的です。たとえばドイツに行った時、ある芸術監督が、役者を一つの方法で訓練するとか、劇場を演劇界の中でどう位置づけるか、という発想はあまりに古すぎると言います。それは、観客には直接関係ないと。観にきてくれる人が喜び、またこれまで劇場に来たことがない人でも何かを感じてくれればいいので、それがファッションショーであれ、アートであれ、どんな素人の企画であれ、何

でもいいんだと。人と人が感動することが演劇の目的で、劇場の在り方を専門家の中で論じあっているのは、演劇が衰退し、ネット社会に飲まれてしまうと危惧しているんです。また一方で、ほかの演劇を否定したり、新たな時代を否定することで「これこそが演劇です」といっていた劇場もありました。やはり劇場が多い分、意見も突出していて、その個性がお互いを刺激しているんですね。しかし誰もが共通しているのは、劇場に来たことがない人に少しでも多く来てもらうアプローチです。といって、あれを観たい、これを観たいという人の意見をみんな聞いているうちに、高視聴率を稼ぐためのような、安全パイを創るのでは駄目なんです。それでは本来の人間の個性、新たな創造性の刺激もなくなってきて、むしろ一般の人までその面白さが伝わらなくなってしまうからです。  
中島●昨年愛知県で開かれた「世界劇

場会議国際フォーラム」でイギリスのマネジメントの方たちが、「公共」とは、質のいい芸術を皆さまに届けることであるけれど、問題は、それが人々にちゃんと届いているかどうかだと話した。その「人々」とは、演劇が嫌いな人、劇場なんか関係ないとか、あるいは引きこもっている人とかジャンキーだとか、みんな「人々」の一人で、その人たちのことをたえず頭に入れて企画を推進するのが私たちの責務だと。  
宮本●僕はそこに本当に賛同しますね。僕自身、演劇をやっているのは、いろんな人たちにもっとライブで様々な表現を感じてほしいからで、分かる人だけ分かればいい、観客が入らなくてもそれでいいというのでは、「いろんな人」にならない。劇場に足を運ばない人でも、その人生に必ず何か触れるものがあるんじゃないかって。それでミュージカル含めジャンルを超え、刺激的に展開しようとしているんです。

KAAT神奈川芸術劇場プロデュース 親子のためのファミリー・ミュージカル  
『ピノキオ～または白雪姫の悲劇～』

原作＝カルロ・コロデー 演出・脚色＝宮本亜門

作曲・音楽監督＝深沢桂子 共同演出・振付＝福島桂子

●日時＝9月14日[土]—15日[日] 14日15:00開演／15日11:00開演・15:00開演

●会場＝PLATアートスペース ●料金＝大人3,000円／子ども[4歳以上小学生以下]500円

●チケット発売＝会員先行 7月7日[日]／一般発売 7月14日[日] ※3歳以下入場不可

でも今までのような劇場をやっていたら「人々」は来ないんです。だからPLATはちょっとしたパーティのできる創造活動室も作ったし、カフェもロビーと一体化した。そこで待ち合わせしたり、ぼーっとする人がいてもいいじゃないかって。たとえばコンビニの前で座っている若い子たちが気になるなら、とにかくここへ、劇場へおいでよって。宮本●まさにその通りですよ。その熱い思いは、持ち続けるべきです。しかし公共はあまりに慣例化された書類が多いため、気力が萎えてくる。だから僕を含め、雑務で本当の目的を見失ってしまわないように、劇場に関わる全員に「一番の問題は自分自身にあるんだ」と言います。これまでにないアイデアで、楽しくオリジナルで、地域に根付いた参加型の劇場を育てていくべきですよ。

【みやもと・あもん】 演出家。1958年生まれ、東京都出身。KAAT神奈川芸術劇場・芸術監督。1987年演出家デビュー作「アイ・ガット・マーマン」で文化庁芸術祭賞を受賞。2004年NYブロードウェイで東洋人初の演出家として手がけた「太平洋序曲」が、トニー賞4部門にノミネートされる。2011年KAATのこけら落としとして、三島由紀夫原作の「金閣寺」を舞台化し、NYリンカーン・センター・フェスティバルに招へいされた。2013年9月にはオペラ演出では初となる欧州進出で、オペラ「魔笛」をオーストリア・リンツの新歌劇場で上演するなど、国際的な活動も目白押し。



みんなが舞台を創る一員となる。  
このわくわく感、  
絶対に体験してほしい

演出・脚色 宮本亜門

そもそも『ピノキオ』自体が奇想天外なお話で、わけがわからないところがいっぱい。だから想像を働かせることができ、面白いです。それに、ピノキオ自身が、「いい子」じゃない。その「いい子じゃない」子が主役だからこそ最高なんです。だいたい、大人の顔色を伺っている、本来の子どもの姿ではない。それに、今、子どもたちの世界は学校のプログラムにダンスが入って身体表現も身近になってきたし、ネットの広がりでも物事の見方も多面的になっています。むしろ、知らないのは大人のほうで、これまでと違う世界が子どもたちから創られてきているんです。そんな子供の可能性を引き出したいと、今回のピノキオはほかのおとぎ話まで入れ込んで、白雪姫、キツネ、猫から大魔王まで次々と登場します。円の真ん中も客席となる円形劇場。そのワンダーランドに自ら接近し、みんなが舞台を創る一員となる。このわくわく感、絶対に体験してほしいです。子供が見たら忘れられない贅沢な時間になるし、ご両親も最高に温かい時を過ごせると思います。

これまでにないアイデアを

中島●もちろん、いいものを作りたいと思いますよね。だけど、イギリスのナショナルシアターなんかでも、「みんな、仲間になるう」というコンセプトでやっている。いつま

PLAT  
主ホール  
速報

作・演出  
永井 愛

岸田國士戯曲賞受賞作  
『兄帰る』14年ぶりの再演。

突然帰ってきた長男をめぐる、さまざまな選択を迫られる親族たち。それは、どこか今の社会の姿にも似て……

出演＝鶴見辰吾／草刈民代  
堀部圭亮 他

●日時＝9月7日[土] 13:00開演

●会場＝PLAT主ホール

●料金＝[全席指定]S席5,500円/A席4,000円

●チケット発売＝会員先行 6月23日[日]  
一般発売 6月30日[日]

「いつか再演したいとは思っていたけど、『こんばんは、父さん』のあと、なぜか急にやりたくなかったのね。『兄帰る』は、家庭内のことだけど、何をすべきなのか、何が一番良いことなのかを考えないで、根回しとか力関係で物事を選択してしまう。それは、今の日本の姿に似ている。そういう不安がちょっとあったのかもしれない」(永井 愛)



7/18 THU

**松竹大歌舞伎**  
**『市川亀治郎 改め  
四代目市川猿之助襲名披露』**

- 日時=7月18日[木] 13:00開演・18:00開演 [2回公演]
- 会場=PLAT主ホール
- 料金=[全席指定]S席10,000円/A席7,000円/B席5,000円

前売予定枚数終了!  
※当日立ち見スペースの  
販売あり(各回10枚程度)

8/17 SAT — 18 SUN

あいちトリエンナーレ2013  
**ままごと『日本の大人』**

- 作・演出=柴 幸男
- 出演=秋葉由麻 / 大石将弘  
高田博臣 / 高野由紀子
- 日時=8月17日[土] 19:00開演 / 18日[日] 11:00開演・15:00開演
- 会場=PLATアートスペース
- 料金=大人3,000円 / 子ども[4歳以上小学生以下]500円 ※3歳以下入場不可



好評発売中



ままごと(mamagoto)「あゆみ」2011年 撮影:青木 司

**あいつは小学26年生。あいつと言葉を交わした、あの瞬間、僕の成長は、はじめた。**

2010年にスタートした「あいちトリエンナーレ」は、新たなアートを愛知から世界へ発信する国際芸術祭。2回目の今年のテーマは「揺れる大地—われわれはどこに立っているのか: 場所、記憶、そして復活」。一方、『日本の大人』作・演出の柴幸男が求めるのは、「一瞬でもいい、過去・現在・未来を同時に観たような感覚」。主宰する劇団名には、演劇を「ままごと」のように身近に、豊かに感じてほしいという思いが込められています。『わが星』で第54回岸田國士戯曲賞を受賞してから2年。6月のPLATワークショップを経て柴が贈る「みらいのおとなと、むかしのこども、が、いっしょにみる、えんげき」に、時を超えて私たちが共有する「今」がアートスペースに立ち現われます。

【しば ゆきお】 1982年生まれ、愛知県出身。「青年団」演出部所属。日本大学芸術学部在学中に『ドドミ』で第2回仙台劇のまち戯曲賞を受賞。2010年に『わが星』で第54回岸田國士戯曲賞を受賞。『わが星』全国6都市ツアーや岐阜県可児市での市民劇の演出、あいちトリエンナーレ2010の参加など、全国各地にて精力的に活動中。



柴 幸男 [作・演出]

8/23 FRI — 25 SUN

あいちトリエンナーレ2013  
**現代アート展『モバイル・トリエンナーレ』**

- 出品作家=青木野枝 / ヤノベケンジ / 渡辺 豪 他
  - 日時=8月23日[金]—25日[日]
  - 会場=PLATアートスペース 他 ● 料金=無料
- あいちトリエンナーレ参加アーティストの作品を展示いたします。現代アートの最前線をPLATで感じてください。

9/7 SAT

会員先行=6月23日[日] 一般発売=6月30日[日]

**二兎社『兄帰る』**

- 作・演出=永井 愛
- 出演=鶴見辰吾 / 草刈民代 / 堀部圭亮 他
- 日時=9月7日[土] 13:00開演 ● 会場=PLAT主ホール
- 料金=[全席指定]S席5,500円/A席4,000円

9/14 SAT — 15 SUN

会員先行=7月7日[日] 一般発売=7月14日[日]

KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース  
親子のためのファミリー・ミュージカル  
**『ピノキオ～または白雪姫の悲劇～』**

- 原作=カルロ・コローディ ● 演出・脚色=宮本亜門
- 作曲・音楽監督=深沢桂子 ● 共同演出・振付=福島桂子
- 日時=9月14日[土] 15:00開演 / 15日[日] 11:00開演・15:00開演
- 会場=PLATアートスペース
- 料金=大人3,000円 / 子ども[4歳以上小学生以下]500円 ※3歳以下入場不可

9/28 SAT — 29 SUN

会員先行=8月4日[日] 一般発売=8月11日[日]

**平山素子ダンスワークショップ  
ショーイング**

- 総合監修=平山素子 ● ゲストダンサー=大嶋正樹 他
  - 出演=WS参加者より選抜された約15名 / 平山素子
  - 日時=9月28日[土] 19:00開演 / 29日[日] 14:00開演
  - 会場=PLATアートスペース ● 料金=2,000円(予定)
- 2年間かけて行った「平山素子ダンスワークショップ」参加者から選抜されたメンバーによる成果発表に加え、豊田市出身の大嶋正樹(元東京バレエ団・プリンシパル)と平山素子によるデュオ作品発表という、贅沢なダンス公演です。

## チケットの購入・お問合せは

プラットチケットセンター [会員先行・一般発売]

- Web = <http://toyohashi-at.jp>  
ホームページから24時間いつでも予約可能です。  
※プラットフレンズへの登録が必要です。
- Tel = 0532(39)3090
- 窓口 = 穂の国とよはし芸術劇場1F  
Tickets & Informationカウンター  
受付時間 [Tel・窓口] 10:00~19:00 (休館日をのぞく)

## U24・高校生以下 割引のご案内

若い人にこそ生の舞台を楽しんでもらいたいから、ほぼすべての豊橋文化振興財団主催公演に割引料金を設定しています。

- 料金 = U24 [24歳以下対象]: 公演ごとに指定する席種の半額  
高校生以下: 一律1,000円
- 購入方法 = 各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。  
※一部公演により発売開始日や発売方法が異なります。
- その他 = 本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。  
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

# 10/5 SAT

会員先行 = 7月21日 [日]  
一般発売 = 7月28日 [日]

## この秋、PLATが 15世紀フランスになる。

世田谷パブリックシアター  
プロデュース

## 『ジャンヌ』

—ノーベル賞作家が暴く  
聖女ジャンヌ・ダルクの真実—

- 作 = バーナード・ショー  
『聖女ジョウン』(原題)
- 翻訳 = 中川龍一 / 小田島雄志
- 演出 = 鷗山 仁

- 出演 = 笹本玲奈 / 今井朋彦 / 伊礼彼方 / 村井國夫 他
- 日時 = 10月5日 [土] 14:00開演 ● 会場 = PLAT主ホール
- 料金 = [全席指定] S席6,500円 / A席4,000円

## 社会と個人、男性と女性、そして神と人— 彼女はなぜ、異端の魔女として 火刑台で死ななければならなかったのか?

フランスのロレーヌ地方に生まれたジャンヌは、あるとき突然“神の声”を聞く。その“声”に導かれるまま、彼女はフランス軍の先頭に立ってイギリス軍を破った。だが、“神”と直接話す力を持つジャンヌに人々は恐れを抱きはじめる……。

- 今回、『ジャンヌ』を広く深く発信することで、私自身エネルギーを更新したい。  
演出 鷗山 仁

- これからフランス・ジャンヌの聖地を訪ね、いろいろなことを肌で感じて、実在したジャンヌという人物をよりリアルに演じられたらと思っています。  
ジャンヌ・ダルク役 笹本玲奈



鷗山 仁 [演出]

[うやま・ひとし] 文学座所属、元新国立劇場芸術監督。日本演劇界を代表する演出家の一人として活躍を続ける。『コペンハーゲン』(01年、新国立劇場)で紀伊国屋演劇賞など受賞の他、『ニュルンベルク裁判』(03年、ひょうご舞台芸術)などで読売演劇大賞の大賞、『ヘンリー六世』(09年、新国立劇場)では同賞の最優秀演出家賞を受賞。他に『父と暮せば』『紙屋町さくらホテル』(以上こまつ座)など代表作多数。

## PLAT劇場ツアー

開館直後に開催して好評を博した、劇場ツアー。普段はお見せできない劇場のあんな所、こんな所へ皆様をご案内します。館内を歩き、階段の上り下りがありますので動きやすい服装・靴でご参加下さい。

- 日時 = 7月20日 [土] 10:00-13:00 ● 会場 = PLAT主ホール 他
- 参加料 = 500円 ● 定員 = 各回30名 [先着制]
- 申込方法 = 6月30日 [日] からプラットチケットセンター  
電話のみ Tel: 0532(39)3090

※今回以降も、随時開催してまいります。日程等は本誌や劇場HPなどでご案内いたします。

PICK  
UP!



撮影: 細野晋司

# 12/21 SAT

## 宮川彬良 presents

## 『劇場へ行こう!』

### ~In To The Theatre~

- 音楽 = 宮川彬良 ● 演出 = 田尾下哲
- 脚本・作詞 = 新井陽子 ● 日時 = 12月21日 [土]
- 会場 = PLAT主ホール

## 劇場ってどんなところ? 何をするとところ?

2011年から始まった「アキラ塾」の塾長としてお馴染み、宮川彬良さん。市民と一緒に作った「穂の国」の魅力いっぱいの豊橋分校校歌もすでに3本を数えています。そんな彼の芸術魂を刺激したのがPLATの主ホール。市民は「観る」側だけじゃない、ステージに上がって一緒にコンサートをやろうと、演出にあいちトリエンナーレプロデュースオペラ『蝶々夫人』の演出も手掛ける田尾下哲さんを迎え、早々に『劇場へ行こう!』という企画が動き始めています。

速報!

## 田尾下哲

## ワークショップ・オーディション

「宮川彬良presents『劇場へ行こう!~In To The Theatre~』の出演者オーディションを行います。ソリスト(男女)や子どもから大人までのアンサンブルやセリフのある役などの配役を決定します。

## ワークショップ

- 日程 = ① 7月12日 [金] — 14日 [日]  
② 11月8日 [金] — 10日 [日]
- 講師 = 田尾下哲 [演出家] ● 会場 = PLAT創造活動室A

## オーディション

- 日時 = 7月14日 [日] 10:00—17:00
- 会場 = PLAT創造活動室A

## 宮川彬良 音楽稽古

- 日時 = 11月3日 [日・祝] (時間未定) ※申込方法等、詳細は追ってHPやチラシなどでお知らせいたします。
- 会場 = PLAT創造活動室A

## グロトリアンを弾いてみよう

遙々ドイツからPLATへやってきたグロトリアンピアノの響きを体験できる機会を設けました。大切に扱ってくれる方ならお子様でもかまいません。グロトリアンピアノの響きをぜひ感じてください。

- 日時 = 7月27日 [土]・28日 [日] ● 会場 = PLAT創造活動室A
- 参加料 = 1時間あたり1,000円
- 対象 = ピアノ演奏ができる方。
- 募集人数 = 毎時00分から1時間単位で最大2時間まで。
- 申込方法 = 6月30日 [日] からプラットチケットセンター  
電話のみ Tel: 0532(39)3090

※今回以降も、随時開催してまいります。日程等は本誌や劇場HPなどでご案内いたします。

# ホワイエ ON PAPER

アートスペースこけら落とし公演  
変幻自在の小空間に息を  
吹き込んだ5日間



PLATプロデュース  
『父よ!』

## 稽古場レポート こうして、兄弟4人の家族の物語は始まった ▶▶

表現者が求める空間に自在に変わるアートスペース。そのこけら落とし公演がPLATプロデュースによる『父よ!』です。6月12日から5日間に渡る連続上演は、観客の皆さまとともにアートスペースに息を吹き込む大切な時間であると同時に、PLATプロデュースによる『父よ!』というドラマを熟成させるものとなりました。



その『父よ!』に登場する4人兄弟が初めて勢揃いしたのは、本番の約1か月前、世田谷パブリックシアター稽古場。渡されたばかりの決定台本を手に、本読み稽古がスタートします。「おう」「うん」「親父は?」と三男と四男が話し始めると、とたんに稽古場に家族の世界が現れて、互いにすねてみたり虚勢を張ったり、親密な笑いを洩らしたりと、それは、まるで今この瞬間に起きている現実の会話のよう。でも、出演者にとって本読みは、いわば始まりの始まりです。6月3日からは全員が豊橋に滞在して、それこそ本当の兄弟のように過ごす密度の濃い日々へ、そして本番へ。皆さまが目撃した兄弟のドラマには、こんな熱い時間が生きています。



田村孝裕 [作・演出]  
今の作品は、5人の役者の背景を勝手に想像するという、いわばキャストイングと同時進行で脚本が生まれた感じ。本読み稽古だけでも面白いので、どんな舞台になっていくか楽しみです。



花王おさむ [長男役]  
今回は、キャストを頭に入れての「あと書き」に近い、久しぶりの体験です。6月3日からの豊橋に詰めての稽古は、1日24時間「役者である私」に徹することができる貴重な体験です。



ベンガル [次男役]  
田村君は柔軟性のある作家なので、みんなで作るうちにどんどんいいものになっていくはず。期待してください。



平田 満 [三男役]  
井上加奈子 [民生委員役]  
私たちはすでに何度も豊橋のステージに立ってきましたし、ワークショップも開いてきましたが、『父よ!』は、その豊橋の新しい劇場からの発信です。やはり心構えが違う。日々神聖な気持ちで取り組んでいます。



徳井 優 [四男役]  
テレビでも舞台でも、僕はいつも自然体。だから、この役も、普段の僕そのままだと思っていただいてもいいですよ。



● 神奈川公演: 6月21—23日  
KAAT神奈川芸術劇場(大スタジオ)  
● 東京公演: 6月25—30日  
シアタートラム(世田谷)

|   |  |   |   |   |   |                                   |   |  |
|---|--|---|---|---|---|-----------------------------------|---|--|
| <p><b>印刷</b></p> <p>株式会社<br/>三宝堂印刷所</p> <p>〒430-0841<br/>電話 五三六一四一<br/>ファックス 五三六一四八</p> | <p><b>本の豊川堂</b></p> <p>アルミピア<br/>カピタ</p> <p>本店 五五二八八番<br/>本館 五五二八八番<br/>店 五五二八八番<br/>店 五五二八八番<br/>店 五五二八八番</p> | <p><b>TAKEO</b></p> <p>代表取締役 竹尾 誠<br/>株式会社 竹尾建築設計事務所</p> <p>豊橋事務所 / 豊橋市平川町91-2 〒434-0035<br/>Phone: 0532-62-1331 (代)<br/>Fax: 0532-62-1332</p> <p>浜松事務所 / 浜松市東区流通元町13 〒433-0007<br/>Phone: 053-422-3628 (代)</p> <p><b>Gallery 48</b></p> <p>呉服町48 TEL.54-4848</p> | <p><b>伊藤藤医</b></p> <p>外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科</p> <p>豊橋市小池町字原下三十五<br/>伊藤藤文之 二一院</p> <p>電話 五五八六番</p> | <p>看板広告<br/>アラキスタヂオ</p> <p>豊橋市上伝馬町十六<br/>電話 五五八六番</p> | <p>医療法人 慈豊会<br/>大島整形外科クリニック</p> <p>理事長 大島 照夫<br/>院長 大島 敬<br/>東田町井原三九の七(市電赤岩口駅前)<br/>電話 六二一五五一(番代)</p> | <p>医療法人 赤岩病院</p> <p>電話 六二二〇五番</p> | <p><b>YMバレエ</b><br/>カンパニー</p> <p>電話 六二二〇五番</p> <p>21 8610</p> | <p>有限会社 魚伊</p> <p>電話 52-5256</p> <p>本と文具なら<br/><b>精文館書店</b></p> <p>TEL.54-2345</p> |
|---|--|---|---|---|---|-----------------------------------|---|--|

**プラットフォーム募集中** [入会金・年会費無料]

**お得な3つの特典**

- 特典1** 公演情報をメールでご案内します。
- 特典2** インターネットでチケット予約ができます。
- 特典3** 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。

**登録方法**

- WEBで登録 [穂の国とよはし芸術劇場HP]  
<http://toyohashi-at.jp>
- 携帯で登録  
<https://piagettii.e-get.jp/online-ticket/de/>
- 窓口で登録  
**穂の国とよはし芸術劇場 1F**  
**Tickets & Information カウンター**



**チケット購入案内**

- ◆プラットフォームセンター [会員先行・一般発売]  
Web=<http://toyohashi-at.jp> ※プラットフォームへの登録が必要です。  
Tel=0532(39)3090  
窓口=穂の国とよはし芸術劇場1F  
Tickets & Information カウンター  
受付時間 [Tel・窓口] 10:00~19:00 (休館日をのぞく)
- ◆その他 [一般発売・公演によって販売所は異なります]  
チケットぴあ/カルミア2Fサービスセンター  
ほの国百貨店6Fプレイガイド など

**お問い合わせ**

**穂の国とよはし芸術劇場**

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地  
Tel=0532(39)8810 [代表]  
<http://toyohashi-at.jp>  
開館時間=9:00~22:00 休館日:第三月曜・祝日の場合は翌日。年末・年始。

# sala サラグループ

私たちは、「穂の国・豊橋」の文化振興活動を応援しています。

|  |   |   |  |   |   |
|--|---|---|--|---|---|
| <p><b>竹内産婦人科</b></p> <p>産婦人科<br/>婦人科 (不妊治療)</p> <p>豊橋市新本町 23</p> <p>豊橋 竹内産婦人科 検索</p> | <p>水各種販売 / 冷蔵倉庫業</p> <p><b>大正冷蔵</b></p> <p>本社 豊橋市湊町 117<br/>TEL: 0532 52 1161<br/>FAX: 0532 52 8015</p> | <p>山本製粉株式会社</p> <p><b>ボンボン</b><br/>ラーメン</p> <p>なつかしの味</p> | <p>写楽集団・クラブ</p> <p><b>KAIHO</b></p> <p>KOTARO (リーダー)<br/>NORI-G (事務)<br/>GUCCHI (事務)<br/>TAKEDA (広報)</p> <p>DAIGOLAW (法務)<br/>NOBU (編集)<br/>MATSUO (監修)</p> <p>photo</p> | <p>株式会社 <b>谷山建築設計事務所</b></p> <p>豊橋市西羽田町 一八三<br/><a href="http://tanji-arch.com">http://tanji-arch.com</a></p> | <p>調理と製菓のおいしい資格。</p> <p><b>豊橋調理製菓専門学校</b></p> <p>豊橋市八町通一丁目二十一<br/>TEL: 五三二一八〇九</p> <p>広告募集中</p> |
| <p>広告募集中</p>   | <p>創業明治七年</p> <p>三河の滋味</p> <p>つくだ煮</p>  | <p>SUBARU</p> <p>スバル東愛知販売</p>                             | <p>稲荷寺</p> <p>壺屋舟当部 取: 0532-31-1133</p>  |   |   |

|  |   |   |   |   |  |
|--|---|---|---|---|--|
| <p><b>気まぐれコンサート</b></p> <p>事務局 / 0532-62-9259 (小川恵司)</p>                           | <p>am.10:00~pm.5:00</p> <p><b>るる</b></p> <p>茶屋</p> <p>甘味処 抹茶・コーヒー<br/>あんみつ・豆かんてん</p> <p>中岩田5丁目6の4 TEL:63-0202</p> | <p>呉服</p> <p><b>田田中屋</b></p> <p>プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。</p> <p><b>共和印刷株式会社</b></p> <p>豊橋市小池町36番地の1<br/>TEL: 461-3228<br/>FAX: 461-3285</p> | <p>整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科</p> <p>医療法人 <b>大岩整形外科・皮フ科</b></p> <p>院長 大岩 俊久<br/>豊橋市大橋通二丁目二二五<br/>電話 五五一二二一〇〇</p> | <p>伝統的工芸品 豊橋筆<br/>書道用品専門店</p> <p><b>高誠堂</b></p> <p>豊橋市呉服町四拾四番地<br/>電話 五二一五五一四</p> | <p>豊橋名産</p> <p><b>舟ちくわ</b></p> <p>天之美 緑</p> <p>なりや花ぞん</p> <p>創業文政年間<br/>日栄 養飯</p> <p><b>さく宗</b></p> <p>豊橋市新本町40<br/>電話52-5473番</p> |
| <p>茶席のきもの<br/>みあけ</p> <p><b>美朱呉服店</b></p> <p>豊橋市新栄町大溝46-3<br/>電話(0532)31-5399番</p> | <p>SHOHOKYA</p> <p><b>塩之谷整形外科</b></p> <p>院長 塩之谷 昌<br/>副院長 塩之谷 香</p> <p>豊橋市船田町関取54<br/>☎(0532)25-2115(代)</p>       |   |   |   | <p>ココロフロント ホテルアーケードシユール</p>  |

# PLAT CALENDAR

## 7 JULY

- 2 TUE 宗偏吉田流和有茶会 臨濟寺
- 3 WED—5 FRI 豊橋演劇鑑賞会  
第237回例会劇団民藝『どろんどろん』 PLAT主ホール
- 5 FRI 第713回豊橋邦楽鑑賞会 豊橋市民文化会館
- 6 SAT—7 SUN 第34回 小市民寄席 豊橋市公会堂
- 6 SAT 裏千家六日会月釜 三の丸会館
- 7 SUN 第33回 東三河人形劇まつり 豊橋市民文化会館  
茶道クラブ月例茶会〔松尾流〕 三の丸会館  
裏千家静和会月釜 三の丸会館
- 14 SUN ポヘミアンローズ  
WORLD DANCE CARNIVAL PLAT主ホール
- 15 MON 加藤真弓 ピアノ・チェロ発表会 PLATアートスペース
- 18 THU 松竹大歌舞伎  
『市川亀治郎改め四代目市川猿之助襲名披露』 PLAT主ホール
- 21 SUN 第37回CMCピアノコンクール2013本選会 PLAT主ホール  
白井孝子 ピアノ発表会 PLATアートスペース
- 27 SAT 板垣豊美『創作フラメンコ～出雲阿国～』 PLATアートスペース
- 28 SUN コーロソアヴェェの第5回コーラス演奏会 フロイデンホール
- 30 TUE—8/1 THU 中部日本高等学校演劇東三河地区大会 PLAT主ホール
- 31 WED—8/3 SAT 第4回豊橋青少年オーケストラキャンプ ライフポートとよはし

## 8 AUG

- 2 FRI 第714回豊橋邦楽鑑賞会 豊橋市民文化会館
- 3 SAT 新城ゴスペルクワイヤー Heavenly Kingdom  
ゴスペルコンサート2013『Prayer』 PLAT主ホール
- 9 FRI—13 TUE 中部日本高等学校演劇愛知県大会 PLAT主ホール
- 11 SUN 合唱演奏会 Heartful concert28 PLATアートスペース  
豊橋ユースオーケストラ第14回定期演奏会 ライフポートとよはし
- 13 TUE ピアノおざらい会 PLATアートスペース
- 17 SAT—18 SUN ままごと『日本の大人』 PLATアートスペース  
合唱劇『カネト』プラット公演 PLAT主ホール
- 18 SUN 明治大学マンドリンコンサート アイブラザ豊橋
- 23 FRI—25 SUN 現代アート展  
『モバイル・トリエンナーレ』 PLATアートスペース 他
- 24 SAT 歌謡ショー 石原詢子25周年コンサート PLAT主ホール  
ASANOインターナショナル・バレエ 第5回発表会 アイブラザ豊橋  
第7回吉田城薪能『音玉言霊』 豊橋公園吉田城前本丸広場
- 25 SUN 西村由紀江 ピアノコンサート PLAT主ホール

[表紙写真]

4月30日に行われたPLATオープニング記念式典で、2台のピアノを同時演奏する小曾根真氏。写真右がグロトリアン、左がスタインウェイ。

## 穂の国とよはし芸術劇場

TOYOHASHI ARTS THEATRE  
〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地  
Tel 0532(39)8810〔代表〕 <http://toyohashi-at.jp>

